

主論文の要旨

D-dimer Measurement for Prediction of Pre- and Post-operative Venous Thromboembolism in General and Abdominal Surgical Cases

(一般外科/腹部外科手術症例における静脈血栓塞栓症評価のための D-dimer 測定の意義)

東京女子医科大学 外科学 (第二) 教室
(主任: 亀岡 信悟 教授)

八田 一葉

東京女子医科大学雑誌 第 84 卷 臨時増刊号 85 頁~93 頁 (平成 26 年 11 月 30 日) に掲載

【要旨】

周術期に発症する肺血栓塞栓症は重篤であり適切な術前のリスク評価および予防は重要である。本研究では、D-dimer 値と Caprini score との比較から静脈血栓塞栓症 (VTE) のスクリーニング及びリスク評価における術前 D-dimer 測定の意義について検討した。当科における 1 年間の腹部/一般外科手術症例を対象とした。術前に D-dimer 値を測定し、D-dimer 高値群 ($>1 \mu\text{g/mL}$) あるいは VTE の既往/家族歴を有する 82 例に対し、下肢静脈エコー及び造影 CT を行ったところ、12 例に VTE を認めた。VTE の頻度は全症例中 3.9%であった。また、Caprini score を測定し VTE のリスク評価を行った。Caprini score の平均値は、VTE 陽性例 6.83 (± 2.04)、陰性例 5.54 (± 1.75) で、 $p=0.0238$ と VTE 陽性例の Caprini score は有意に高値であった。Caprini score は VTE のリスク評価に有用であると考えた。Caprini score の平均値は D-dimer 高値群 5.53 (± 1.86)、低値群 4.74 (± 1.90) で、 $p=0.0006$ と D-dimer 高値群では Caprini score は有意に高値であった。Caprini score は VTE のリスク評価において有用性の確立された指標ではあるが、score 化が煩雑であるのが難点である。本研究の結果から VTE 発症のリスク評価において煩雑な Caprini score に代わり、非常に簡便な D-dimer 測定が有用である可能性が示唆された。

